

「むし歯（う歯）」（表9，図6～図8）

平成26年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は，幼稚園38.46%，小学校52.54%，中学校42.37%，高等学校53.08%となっており，全ての学校段階で前年度より減少している。

「むし歯」の者の割合の推移（図6）をみると，幼稚園は昭和45年度，小学校，中学校及び高等学校では昭和50年代半ばにピークを迎え，その後は減少傾向にある。また，「未処置歯のある者」の割合の推移（図7）は，全ての学校段階で昭和23年度の調査開始以降，過去最低となっている。

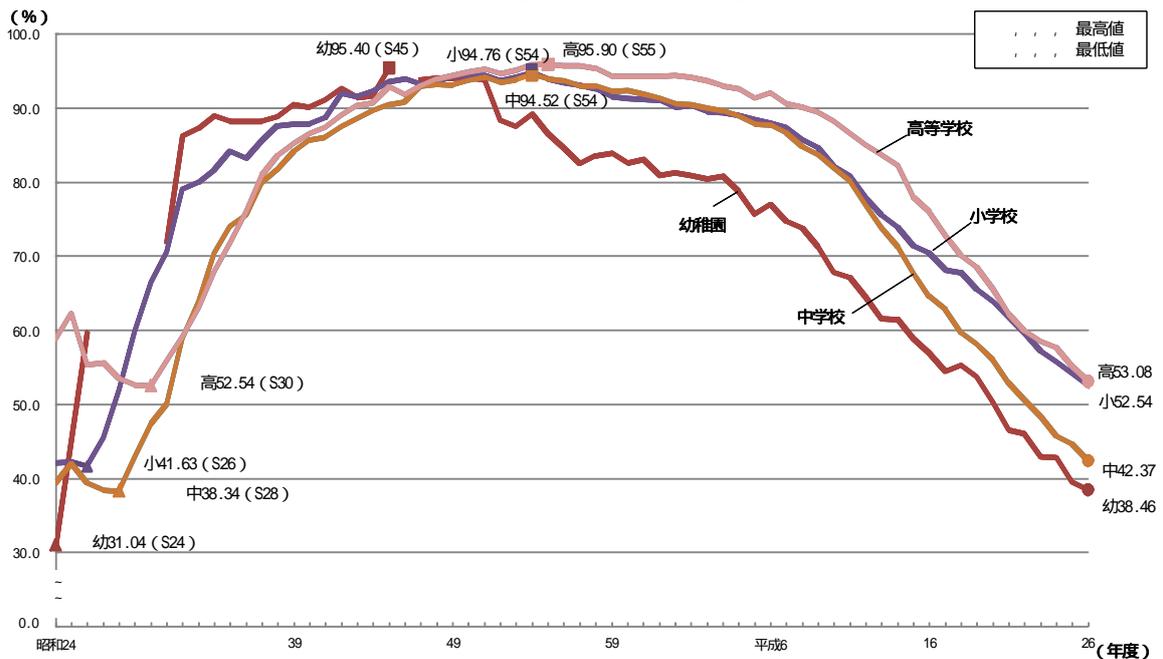
「むし歯」の者の割合を年齢別（図8）にみると，9歳が59.84%と最も高くなっている。また，処置完了者の割合は，8歳以降，未処置歯のある者の割合を上回っている。

表9 むし歯（う歯）の者の割合の推移

区分		(%)								
		昭和59年度	平成6	16	22	23	24	25	26	
幼稚園	計	83.86	76.96	56.92	46.07	42.95	42.86	39.51	38.46	
	処置完了者	23.58	28.21	23.02	18.36	16.91	17.31	16.01	15.68	
	未処置歯のある者	60.28	48.75	33.90	27.71	26.04	25.55	23.50	22.78	
小学校	計	91.52	88.01	70.43	59.63	57.20	55.76	54.14	52.54	
	処置完了者	30.04	39.31	33.73	29.20	28.65	28.36	27.18	26.23	
	未処置歯のある者	61.49	48.70	36.70	30.44	28.56	27.41	26.96	26.30	
中学校	計	92.24	87.74	64.61	50.60	48.31	45.67	44.59	42.37	
	処置完了者	40.83	42.49	35.78	28.02	26.75	25.55	24.92	23.83	
	未処置歯のある者	51.41	45.25	28.84	22.58	21.56	20.12	19.66	18.54	
高等学校	計	94.30	91.97	75.97	59.95	58.46	57.60	55.12	53.08	
	処置完了者	41.29	47.46	43.73	34.21	32.24	32.34	31.45	30.45	
	未処置歯のある者	53.02	44.51	32.24	25.74	26.22	25.26	23.67	22.63	

(注) 1. 四捨五入しているため計と内訳が一致しない場合がある。以下の各表において同じ。
2. 「むし歯（う歯）の者」は昭和24年度から調査を実施している。

図6 むし歯（う歯）の者の割合の推移



(注) 幼稚園については，昭和27～30年度及び昭和46年度は調査していない。

図7 未処置歯のある者の割合の推移

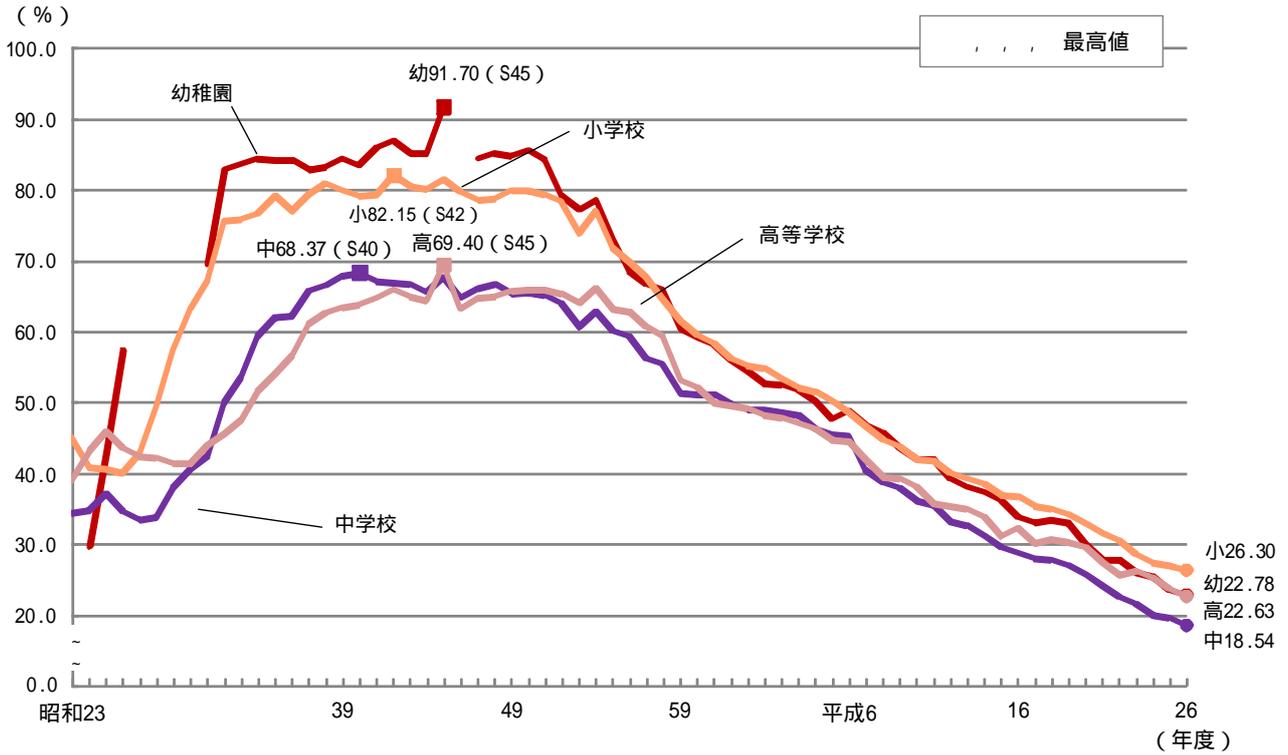
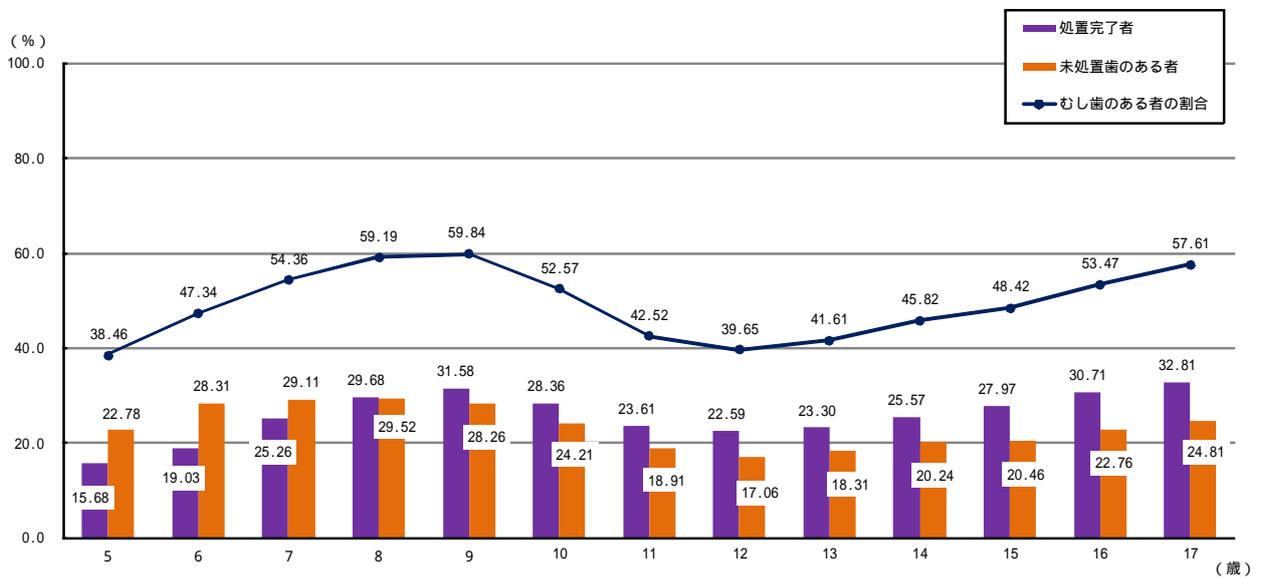


図8 年齢別 むし歯(う歯)の者の割合等



(注) 10歳から12歳において割合が減少するのは、乳歯が生え替わることが影響していると考えられる。

「12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数」（表10，図9）

中学校1年（12歳）のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数（喪失歯及び処置歯数を含む）は，前年度より0.05本減少して1.00本となり，昭和59年度の調査開始以降ほぼ毎年減少し，過去最低となっている。

表10 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数

区 分		昭和59年度	平成6	16	22	23	24	25	26
計		4.75	4.00	1.91	1.29	1.20	1.10	1.05	1.00
喪失歯数		0.05	0.04	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02
むし歯 （う歯）	計	4.70	3.95	1.88	1.27	1.18	1.08	1.03	0.99
	処置歯数	3.35	2.82	1.25	0.81	0.76	0.69	0.66	0.64
	未処置歯数	1.35	1.14	0.62	0.46	0.41	0.39	0.37	0.35

(本)

図9 中学校におけるむし歯（う歯）の被患率等の推移

